

平成 24 年度版 中学校英語教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 検討の観点と内容の特色

項目	検討の観点	特色
<p>全体の 特長</p>	<p>学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、教科の目標を達成できる内容となっているか。</p> <p>①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が図れるように配慮されているか。</p> <p>②4 技能の総合的な育成が図れる内容・構成となっているか。</p> <p>③小学校外国語活動を踏まえた内容となっているか。</p> <p>④取り扱っている教材は適切か。</p>	<p>授業時間数が週 4 時間に増加されることを受け、質量ともに充実が図られている。全学年を通じて 1 セクションの中に「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が配置されており、4 技能の総合的な指導を通してコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう配慮されている。また、活動の難易度も 7～8 割の生徒が無理なくできるレベルのもので基礎学力の向上を図る工夫がされている。また、小学校外国語活動との円滑な接続を実現するため、入門期に計 8 ページを配当してから文字を導入しており、丁寧かつスムーズに中学校英語の学習に入れるよう配慮されている。</p> <p>①全学年を通して、各セクションに学習のめあてが提示されており、到達目標がはっきりしている。また、全学年を通して 3 か所ずつ通常課で学んだ重要表現を活用して行うパフォーマンス活動として My Project のページを設けている。セクションごと、学期ごとの到達目標を明確にすることで、学習意欲を喚起し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できるよう十分に配慮されている。</p> <p>②全学年とも 1 セクションを見開き構成としており、左ページには基本文(1 年「おぼえよう!」、2, 3 年「Basic Dialog」)及びそれを「聞く」「話す」「対話する(使う)」活動が、右ページには基本文を応用・活用した本文と「書く」活動とが配されている。毎時の授業で 4 つの技能・領域を基礎から総合的にバランスよく指導、育成できるよう配慮されているとともに、指導・学習の手順がわかりやすい構成となっている。</p> <p>③入門期の Let's Start!は「あいさつ表現」「身近な英単語」「I like ～./ I can ～」「外来語の英語発音」の 4 本立てとされており、『英語ノート』で活動してきた内容が十分反映されている。また、小学校外国語活動での成果をスキル面から観察・測定できるように、イラストに付した吹き出しを空欄にして、生徒に自由な発話を促す工夫がされている。さらに、アルファベットを正規の課(PROGRAM 1)として位置づけ、本文ページと巻末にペンマンシップを付すなど、丁寧かつ効果的に文字の導入ができるよう配慮されている。なお、イラストは『英語ノート』で慣れ親しんできた同じイラストレーターのイラストを採用しており、独自の配慮がされている。</p> <p>④取り扱う国は英米に偏ることなく、オーストラリア、韓国、インド、フィンランド、スコットランド、メキシコ、ツバル、ルーマニアなど世界の諸国を幅広くカバーしている。また、情報発信の観点から、学年が進むにつれ、日本の伝統文化を紹介する題材が多く採用されている。題材内容については、日常生活のみならず、環境、平和、人権、異文化理解、言語、自然科学、共生などの現代的課題を扱い、生徒に考えさせるすぐれた素材が精選されている。</p>
<p>言語材料</p>	<p>コミュニケーションを支えるものとして、内容・配列が適切であり、定着を図るための工夫がされているか。</p> <p>①音声の扱いは適切になされているか。</p>	<p>言語材料は基礎的・基本的事項が精選され、易から難へ配列されており、学年が進むにつれてより高度なコミュニケーション活動が行えるような内容・配列となっている。基本文(1 年「おぼえよう!」、2, 3 年「Basic Dialog」)は日常的に遭遇する場面を取り上げ、自然な英語を使った対話で示されており、「文法はコミュニケーションを支える」という視点が十分に盛り込まれている。対話は 1 年生 2 行、2, 3 年生では 4 行となっており、学年が進むにつれて分量・内容の充実が図られているとともに、言語が使われる場面・状況がより明確にわかるよう配慮されている。また、定着を図るために各セクションには必ず「聞く」「話す」「読む」「書く」ための基本的な活動が設けられている。また、基本文は文法のまとめコーナーと相互参照できるよう工夫されており、自学自習への配慮とともに言語材料をコミュニケーション面と文法面の両面から理解を深める配慮がされている。</p> <p>①全学年とも各セクションの欄外下に、語の音素の識別、対比、リズム、音調、発音とつづり字の関係などを扱っている。全て該当ページで出現する語彙や文に関連するものを扱い、音声指導において生徒がつまづきやすい項目を取り上げている。また、全学年を通してコラム「発音クリニック」が設けられており、イントネーション、強勢、区切りなどについて丁寧かつ系統的に示されている。さらに、1 年生の巻末資料に「英語のつづり字と発音」が設けられており、生徒自らが本文で学んだ語を音声と文字の関係に着目してまとめ、その関係に気づくことができるよう配慮されている。</p>

<p>言語材料 (続き)</p>	<p>②語彙の学習が効果的に進められるように工夫されているか。</p> <p>③文・文構造・文法事項の扱いは適切か。</p>	<p>②全学年を通して、新出語句を「覚えて使えるようにするべき語」を太字で、「意味がわかればよい語」を細字で表記しており、生徒にとってはそれぞれの単語の重要度がわかりやすく、学習の効率化が図れるよう工夫されている。また、新出の単語にはチェックボックスが設けられており、意味を覚えたら上半分を、発音できるようになったら下半分をぬりつぶすというように、自己学習を促す工夫もされている。全学年に「辞書指導のページ」が設けられているほか、本文ページの傍注にも辞書の活用を促すためのコラムが設けられている。さらに、1年では、「数」「曜日」「序数」などの重要な語について、しばしば参照できるように、これらの単語をまとめた Word Web コーナーが設けられており、効率よく語彙の学習を進められるように配慮している。</p> <p>③本文で取り上げてある文は単文から重文・複文へ、具体的な内容の文から抽象的な内容の文へと配列されており、適切で教えやすい構成である。基本文として提示してある文構造・文法事項は、1年 33、2年 24、3年 19 項目となっており、「コミュニケーション能力の基礎」を育成しやすいように対話文で提示され、分量・内容とも易から難へと適切に配列されている。</p>
<p>言語活動</p>	<p>4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するための工夫がなされているか。</p> <p>4 技能の総合的な育成を図る上で適切な構成・内容になっているか。</p> <p>①「聞くこと」の練習・活動は十分に扱われているか。</p> <p>②「話すこと」の練習・活動は十分に扱われているか。</p> <p>③「読むこと」の練習・活動は十分に扱われているか。</p>	<p>課 (PROGRAM) で学んだ重要表現を用いてパフォーマンス活動を行う My Project のページを全学年に 3 か所ずつ設けている。My Project で行うスピーチ活動は、まずモデル文を「読み」、その構成を分析し、既習事項を復習して原稿を「書き」、それを「話す (発表する)」という小さなステップによる手順に沿って行える構成になっており、複数の技能を組み合わせた統合的な言語活動ができるよう配慮されている。また、My Project では自己紹介などの「スピーチ型」のほか、インタビューなどの「ダイアログ型」、賛成意見・反対意見を述べる「ディベート型」があり、自己表現につながる多様な統合的言語活動が設定されている。さらに、通常課とは別に 4 技能それぞれの技能に特化した POWER-UP シリーズのページが設けられており、単独の技能の育成から複数の技能を組み合わせて 4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成できるようになっている。</p> <p>※ 4 技能の総合的な育成への配慮については p.1 (「全体の特長②」) を参照。</p> <p>①基本文の理解活動として、各セクションに「聞いてみよう (Listening)」が設けられている。また、各課の本文の冒頭に、その課の話題にまつわるキーワードや文化情報などについての音声 (Pre-Listening) が用意されており、音声面から学習内容の導入が行えるよう工夫されているとともに、学習への興味・動機付けが図れるよう配慮されている。さらに POWER-UP Listening では、同じ音声を複数回聞く活動を意図的に設け、概要の把握から詳細な情報まで段階を踏みながら正確に聞き取れるように配慮されており、内容の把握だけでなく書き取り形式の問いも準備されている。内容も「ラジオ放送」(1年)や「天気予報」(2年)、「旅行」(3年)など自然な、かつ聞く必然性のある場面での活動が設定されている。</p> <p>②基本文に基づいた話す活動として、各セクションに「言ってみよう (Speaking)」「使ってみよう (Let's Try)」が設けられている。「言ってみよう (Speaking)」では口頭練習を通して新言語材料の「型」に慣れることを目的としており、「使ってみよう (Let's Try)」ではインタラクティブな練習を通して新言語材料の定着を図るとともに、参考表現も付して適切な自己表現が行えるように工夫されている。さらに POWER-UP Speaking ではペアワークが行いやすいようセリフを同一ページ内で左右に分けたり、場面特有の表現を太字で表示したりするなどの工夫がされている。</p> <p>③本文の各セクションに本文内容を把握できたかを確認する Q&A の活動が設けられている。さらに本文には音読回数に応じてぬりつぶす「音読マーク」も設けられており、自学自習を促すとともに、学習の記録にも役立てられるよう工夫されている。また、対話文の多い 1 年には、まとまりのある文章を読ませるための POWER-UP Reading が、2、3 年には Reading の課が 3 課ずつ配置されており、読んだ内容に対して主体的にかかわりを持ち、コミュニケーションを図らせるための、感想や自分の意見を述べる output の活動が設置されている。また、付録には復習用教材として Review Reading、多読用・速読用教材として Extensive Reading が設けられている。Review Reading は、復習用教材として言語材料が既習の範囲内にとどめられている。また、本課の題材に関連した内容としているので本課の内容理解が深められるとともに、まったく初めての内容を読むよりも学習負担が少なく、効率よく「読む力」が育成できる。Extensive Reading では特に 3 年生では分量・内容ともに高校入試に十分対応できるものとなっている。</p>

<p>言語活動 (続き)</p>	<p>④「書くこと」の練習・活動は十分に扱われているか。</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成について、配慮されているか。</p> <p>言語の使用場面・言語の働きは適切に扱われているか。</p>	<p>④基本文に基づいた書く活動として、各セクションに「書いてみよう (Writing)」が設けられている。またこれに My Project のアイコンを付すことで、My Project につながる活動であることを明確にしており、「今ここで学習しているのは何のためか」がわかり、目標を持って学習ができるように工夫されている。My Project ではモデル文の構成の分析、既習表現の確認、マッピングを使った原稿作成過程を取り入れ、小さなステップを積み重ねながら文と文のつながりに注意して文章が書けるように配慮されている。POWER-UP Writing でもモデルの理解やマッピングを取り入れているほか、メールや日記など英語を「書く」身近で自然な場面を設定している。</p> <p>本文で読んだ内容を踏まえて、自分の感想や意見を表現し、友だちと意見を交換する活動が1年 POWER-UP Reading や2、3年の Reading の課に設けられており、自分の考えをまとめる思考力だけでなく、他者の考えも聞くことで公正な判断力も養うように配慮されている。また、2年 My Project 6 ではディベート教材として「大きな町に住むことに賛成か反対か」をテーマに、それぞれの主張を把握した上で自分の意見を述べる活動が設けられており、客観的な根拠に基づいて思考・判断する力を養うことができる。さらに表現力の育成については、各セクションに配置された「書いてみよう (Writing)」や POWER-UP Speaking および Writing, My Project など多彩な場面設定と活動が配されているとともに、生徒が表現の幅を広げられるよう Word Box や Expression Box を設ける、付録に部活動名、職業名などを示すなどの工夫を凝らすことで語彙力の増強にも配慮されている。</p> <p>学習指導要領に例示された「道案内」「電話」「買い物」などの言語の使用場面や言語の働きが各学年にまんべんなく配置されており、実践的な英語の運用ができるよう多様な言語活動が設定されている。また、上記3つの言語の使用場面については、各学年にくり返し配置され、スパイラルな学習の機会を設けるよう工夫されているとともに、学年が進むにつれて発展的な言語活動が行えるよう配慮されている。</p>
<p>題材</p>	<p>「コミュニケーション能力の基礎」を総合的に育成するのに適切な題材が配されているか。</p> <p>伝統文化と自然科学についての題材は扱われているか。</p> <p>他教科・領域との関連性は配慮されているか。</p> <p>人権への配慮はなされているか。</p>	<p>1年 (PROGRAM 8) では折り紙の話題を通じてスピーチや対話を、2年 (PROGRAM 1) では京都旅行の対話をそのまま自己表現に転用できる設定になっているなど、題材それ自体がコミュニケーション活動になるように配慮されている。また、POWER-UP シリーズではステップを踏んで実践的な場面での言語活動ができるようになっている。</p> <p>学年を追って伝統文化を発信する姿勢が鮮明になっている。具体的には1年 PROGRAM 8 の折り紙、2年 PROGRAM 1 の京都旅行、PROGRAM 11 の結 (ゆい)、3年 PROGRAM 5 の回転寿司、PROGRAM 6 のけん玉など、また3年 Challenge 2 では茶道などである。また、1年 Review Reading 3 では折り紙技術の PET ボトルや宇宙船への応用を、2年 Challenge 1 では「英語で理科」、3年 PROGRAM 8 でクリーンエネルギーを扱い、自然科学に対する興味・関心を高める配慮がされている。</p> <p>他教科 (理科、家庭科、数学など) と関連した内容が外国語科として扱う価値のある切り口で取り上げられている。例えば、2年 Challenge 1 「英語で理科」や3年 Challenge 1 「英語で料理」など。1年 PROGRAM 11 (Flowers in the Classroom) は道徳に関連した内容となっている。</p> <p>全体を通して人権を尊重する態度に貫かれた題材・学習活動が提示されている。2年 PROGRAM 7 のセバン・カリス・スズキの子どもの人権に関する題材のほか、特に3年 PROGRAM 9 のマザー・テレサの功績は人権教育教材として出色である。</p>
<p>組織・配 列・分量</p>	<p>3年間を見通しての学力育成が意識された構成となっているか。</p> <p>基礎・基本の定着が図れる構成か。</p>	<p>本教科書は My Project という各学年3か所のパフォーマンス活動を設け、これらを3年間を通して9回の到達目標として示すことを基本的な骨格構造としている。この目標に向かって各セクションに学習のめあてが示されているという体系的な構成となっているので、生徒に見通しを持った学習をさせるのに大いに有効である。</p> <p>各課 (PROGRAM) のセクションは見開き2ページで2時間配当され、基礎・基本の学力を向上させるために十分な学習・言語活動ができるように配慮されている。また、基本文として提示した項目の数は1年33、2年24、3年19と精選されており、これに「聞く」「話す」「使う」「読む」「書く」活動が加えられており、くり返し学習することにより基本事項の定着が着実に図れる構成となっている。</p>

	<p>習熟度別学習(発展学習)に対応したページはあるか。</p> <p>分量は指導時数に照らして適切か。</p>	<p>2, 3 年に 2 か所ずつ, それまでに学習したことの応用・発展として扱う Challenge を設けている。また, 全学年を通して, 本文以外のプラスアルファの教材として巻末付録に Review Reading と Extensive Reading を設けており, 習熟度別編成などの教材に利用することができる。</p> <p>本文ページ, および言語材料の分量は週 4 時間の指導時数に照らして適切であり, 年間 140 時間での指導・学習が余裕をもってできるように編集されている。</p>
<p>使用上の便宜</p>	<p>自学自習を促すための工夫はされているか。</p> <p>さし絵・写真の質・量は適切か。</p> <p>巻末資料は有用なものが用意されているか。</p>	<p>新出語欄にチェックボックス, 本文わきに音読マークを付して自分の学習を記録し, 振り返るように工夫されている。また, 対話で示されている基本文は「英語のしくみ」(文法のまとめ)と相互参照できるようにされているなど, 生徒が自分で学習内容を振り返ったり整理・確認したりできるように工夫されている。</p> <p>さし絵, 写真は鮮明で数が多く, 学習を支援する材料として理解を助けるのに大きく貢献している。</p> <p>各学年とも本文学習と有機的に関連した豊富な巻末資料が用意され, 言語活動を活発にするための配慮がされている。特に 1 年のアクション・カードは基本的な語彙・表現の学習に非常に有効である。また 1 年 p.144 の「英語のつづり字と発音」は教科書で学んだ単語について, 生徒が自分でつづり字と発音の関係をまとめられるように配慮されている。</p>
<p>表記と表現</p>	<p>文章や記号等の表現についてどのように配慮されているか。</p> <p>活字や書体は学習段階に応じて配慮されているか。</p> <p>色覚特性への配慮はされているか。</p>	<p>現代の標準的で平易な英語を用い, 運用度の高い基本的な表現や語彙・連語が精選され, 易から難へと丁寧に配慮されている。傍注の新出語には 2 年から発音記号が付され, 生徒の発達段階が考慮されている。</p> <p>活字は太めで大きく, 行間も十分に取られ, 視認性に優れている。1 年では手書き文字に近い書体を中心に用いており, 初学者への細やかな配慮が見られる。また, 学年が進むにつれて文字の大きさや書体を変えたり, 手紙文が扱われている課では手書き風の書体を用いたりするなど, きめ細かい工夫がされている。また, 基本文の新言語材料のポイントに該当する部分や「覚えて使えるようになるべき単語」は太字で, 連語は斜字体で表記するなど学習上の便宜が図られている。</p> <p>本課 (PROGRAM) には赤を, POWER-UP シリーズには青色を, 文法のまとめにはオレンジを全学年で統一して使用し, 検索しやすくしている。本文では赤と緑を隣接させない, 図版類等で色が隣り合う場合は境界に輪郭線を施す, 内容理解・問題解答に妨げになるような色使いは避けるなど, 色覚特性への配慮が十分にされている。</p>
<p>造本, 体裁など</p>	<p>印刷・紙面・製本は適切か。</p>	<p>再生紙に大豆油インキで印刷されており, 環境に配慮されているとともに非常に鮮明で見やすい。また, AB判の大判を採用しており, つめこみ感のないゆとりある紙面となっている。製本は針金綴じによるもので堅牢に作られており, 長期間の使用に十分耐えられるものとなっている。</p>